

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1271500595
法人名	社会福祉法人光誠会
事業所名	グループホームフローラもばら
所在地	千葉県茂原市谷本1127-1 (電話)0475-25-6688
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉縣市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2007/10/30

【情報提供票より】(平成19年9月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 8人, 非常勤 10人, 常勤換算 14.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○(250,000円)	有りの場合 償却の有無	○/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(9月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	69 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

通所介護が併設されている広い敷地の中に「グループホームフローラもばら」がある。大きな通りに面して場所的にはとてもわかりやすい施設である。玄関には色鮮やかな花壇が並び、とても明るい雰囲気である。また、敷地内の畑には、職員と入居者が合同で栽培した季節の作物が並んでいる。共有スペースの中央にキッチンが設置してあり、そのまわりを居室が取り囲むように位置しているため、誰もが顔を見合わせることができる。また、室内の採光も高窓の設置により確保されていると共に、風通しも良い。入居者がくつろげる談話コーナーも入居の目線で考慮されており、テーブルの高さも使いやすくなっている。ユニット間の職員ローテーションも定期的に行われており、全職員が全入居者と信頼関係を築き安心かつ安定したサービス提供に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員共に評価の意義を理解しており、評価結果を前向きに捉えて業務改善に取り組んでいる。現在、前回の評価結果に基づき、施設の植栽を増やすことに努めている。植栽にあたっては入居者と共同で種から草花や作物を育てる取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員全体で行い、業務の中での気付きを大切にして入居者への対応に還元している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は過去に2回開催されており、地域の関係者を構成員として事業所の情報公開を行うと共に地域行事や地域での役割について話し合われている。今後は、構成員の個々の意見・要望に耳を傾け、地域とのかかわりを広げていく予定である。また、市の担当者とも連携も図っており、適切かつ円滑な事業運営を心がけている。また、外部の方の福祉体験として施設見学の受け入などを行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見や苦情を汲み取る体制は出来ている。意見や苦情に対しては前向きに捉えて全職員で検討し、今後の対応改善につなげている。今後は、家族懇親会を開催して意見交換の場を確保し、質の向上につなげたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会やボランティアとの交流も定期的に行っており、さまざまな地域行事に参加している。今後も地域交流を促進し、幅広い地域との協力体制の構築を目指している。

【千葉県】グループホームフローラもばら

協力医療機関名	茂原機能クリニック・君塚病院
---------	----------------

--	--

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の自立支援を中心とした独自の理念をつくりあげており、可能な限り個々の入居者の有する力を活用して、日々の共同生活をおくる姿勢が感じられる。		事業所の独自の理念に、地域密着型サービスとしての理念を入れていただくことを望みます。地域や入居者のニーズを把握した上で、地域密着型サービスとしての役割を考え、地域生活の継続とさらなる関係性の強化を期待します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示すると共にミーティング等で随時確認し共通理解を図っている。また、個別ケアにおいても理念がしっかり生かされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや小学校の運動会など地域の行事に参加している。また、老人会やボランティアとの交流も定期的に行っており、歌や踊りなどを入居者と一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共には評価の意義を理解しており、評価結果を前向きに捉えて業務改善に取り組んでいる。また、自己評価についても職員全体で行い、業務の中での気付きを大切にして入居者への対応に還元している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・民生委員・長寿クラブ・家族・職員を構成員として運営推進会議が行われている。会議は過去に2回開催されており、事業所の情報公開を行うと共に地域行事や地域での役割について話し合われている。今後は、構成員の個々の意見・要望に耳を傾け、地域とのかかわりを広げていく予定である。		今後、年間の会議開催回数を増やすことにより、運営推進会議の意義をより高め、地域の理解と支援を得ながら交流を促進していただくことを期待します。

【千葉県】グループホームフローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、市の担当者に相談や連絡を行っている。また、外部の方の福祉体験として施設見学の受け入れを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者ごとの生活状況の報告書を写真入で作成し、毎月家族に送付している。また、希望によりメールでの報告にも対応している。その他、生活状況に変化があった場合は、随時報告している。金銭管理に関する報告もしっかりなされており、毎月の報告書と合わせて金銭出納帳を同封して確認していただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見や苦情の受付箱が設置されているが、面会時等に直接伝えられることが多い。あがった苦情等に対しては前向きに捉えて苦情委員会で検討し、今後の対応改善につなげている。苦情記録が整備されており、内容及び対策がしっかり記載されている。今後は家族懇親会を開催し、意見交換の場を確保すると共に勉強会を含めた情報交換の場として活用していきたいと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内または事業所内の異動があるが、離職者は少ない。事業所内のユニットごとの異動は半年ごとに行っており、職員の半数を入れ替えている。全職員が全入居者との馴染みの関係を築いており、異動についての影響はほとんど無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受けられる機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については全職員が参加できるように、計画的に行われており、記録も整備されている。また、全体ミーティングで研修報告が行われており、全職員が内容を共有している。内部研修については必要に応じて行っている。参加できない職員に対しては、研修内容を回覧することにより内容を共有している。外部及び内部研修の効果は大きく、サービスの質の向上につながっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回グループホームの連絡会に参加している。情報交換や勉強会を行い、相互の質の向上に努めている。また、相互の見学会や夏祭りの参加により事業所間の交流も深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の見学の機会の確保や面談等により本人及び家族の気持ちを把握する努力をしている。入居後は本人の希望や好きなことを中心として生活をおくっている。生活に馴染めない場合は、本人及び家族と相談しながら原因を早期追究し、落ち着いておだやかな生活がおくれるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者一人一人に適切な対応が行き届くように、日々努めている。共に過ごすことで学びもあり、花の名前や歴史、折り紙などを教わっている。職員と入居者が共同で作った作品を地域の夏祭りで販売することもあり、その売り上げで回転寿司に行くなど喜びを共に分かち合っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントはセンター方式を導入しており、個人の心情をしっかりと把握している。把握が困難な場合は、様子観察をしっかりと行った上で個人の気持ちを汲む努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は本人や家族の思いを中心に作成されており、内容についての説明及び確認もしっかりなされている。本人が自分らしく生活ができるように、家族や医師など必要な関係者の意見も反映した計画作りを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、モニタリングと評価を行っており、介護計画の遂行状況を確認している。見直しについては、本人の状態変化や状況及び家族の思いや意見を確認した上で行われており、現状に即した新たな介護計画が作成されている。</p>		

【千葉県】グループホームフローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内にデイサービスが併設されており、毎月誕生会を合同で行い交流の機会を設けている。定期的に入居者の家族訪問を行い状況報告を行うとともに思いを確認している。入居者が入院し、家族が対応できない場合は職員が代替りの役目を果たしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主なかかりつけ医は、隣接している病院で月に2回往診を受けている。かかりつけ医は本人及び家族の希望により自由に決めていただいている。受診支援については家族と職員が共同で行っている。受診状況については業務日誌及び個人の支援経過にしっかり記録されており、情報の共有化がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限りグループホームでの生活を継続してもらうことを事業所の方針としている。終末期の生活については家族と話し合いをして方針を決め、対応に関する確認書を作成した上で了承を得ている。対応についてはマニュアルが作成されており、全職員で共有している。医療の連携体制も確立しており24時間対応可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等については、鍵付きの書庫に保管されており、個人情報の保護がしっかりなされている。個人の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけており、入居者個人個人にあった言葉かけや対応を行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には個々のペースで日々の生活をおくっていただいている。希望を確認した上で散歩や買物に出かけている。また、台所周りの仕事や施設内の掃除の手伝いをいただいている。		

【千葉県】グループホームフローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日以外の昼食はご飯や汁物を除き、併設しているデイサービスで作っている。夕食の準備や毎食後の後片付けは共同で行っている。日曜日の献立については入居者も合同で考え、買物も含めて共同で行っており、楽しみごとの1つとなっている。個人個人にあった食事の提供と支援が適切になされており、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気作りができています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き、毎日入居者の希望に応じて入浴を実施している。浴室の壁の色使いに工夫が見られ、おちついて入浴できる雰囲気がある。入浴を拒否する方については、言葉かけを工夫すると共に掃除の手伝いなどをしていただき、ひと汗かいてから入浴を勧めるなどして入浴の機会を確保している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の希望や力量に応じて、習字・塗り絵・カゴ作りなどを行っている。また、みんなで歌が楽しめるように、事業所内に入居者が好きな歌の歌いだしが掲示しており、みんなで歌っている。その他、掃除・洗濯・調理などにも可能なかぎり参加していただいている。ウッドデッキや戸外の畑で、種から花や作物を栽培している。共同で育てることにより楽しみを共有している。中には栽培にかかわることで、気持ちが落ち着くと共に生活の活性化にもつながっている方もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は本人の希望や天候を考慮し、できる限り実施している。また、買物や近くの海にドライブに行くこともある。お出かけクラブがあり、皆で外出会を企画し年間予定を作成している。お祭りの参加やぶどう狩りなどを行っており、写真からも楽しさが伝わってくる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室のドアには鍵が設置されており、入居者が自由に施錠できるようになっている。部屋で過ごしている方に対しては定期的に言葉かけを行い、状況を確認している。玄関の鍵については、普段は開放されているが、必要時に施錠している。事業所が車の交通量の多い通りに面している為、入居者の安全を優先している。今後は敷地の門扉等を工夫し、敷地内だけでも、自由に行動できる環境を作りたいと思っている。		事業所の周囲の環境上、入居者の安全面を優先することは理解できる。職員の見守り方法や敷地内の環境改善により、日中は玄関の鍵を掛けずに自由な暮らしが支援できるようにすることを期待します。

【千葉県】グループホームフローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、消防署との連携も図っている。地域との協力体制も整備しており、災害時には近くの福祉センターが避難場所になっている。火災時の対応が事業所内に掲示しており、職員全員に周知されている。また、入居者の共有スペースに災害時の必要物品が常備されており、災害時の対策も万全である。		

【千葉県】グループホームフローラもばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや状態に応じて適切な食事提供がなされていると共に、記録もしっかり行われている。ほとんどの入居者が全量摂取しているが、摂取量が少ない場合はおやつの際に栄養を補給し、1日の必要量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンを共有スペースの中央に設置し、個々の居室が周囲を囲むように設計されており、お互いが顔を見合わせて確認できるように工夫されている。高窓の設置により施設内はとてもしつと風通しもよく快適な環境である。共有スペースには個々の作品の展示や季節に合った装飾がなされている。テレビの視聴予定が掲示しており、平等に楽しむ工夫がなされている。ソファーが囲むテーブルは入居者の目線で高さを調整しており、とても使いやすく職員の工夫が感じられる。ウッドデッキに花が栽培されており、皆で楽しめる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に応じて、それぞれの好みや馴染みのものが持ち込まれており、居心地よく過ごせるようになっている。各居室のドアには鍵が設置しており、自由に施錠できるようになっておりプライバシーも確保されている。		